

指導の手引き 5 教科①②

arts and crafts	artsとcraftsの両方にアクセント。	図画工作（図工）
英語らしい音を出すコツ	and は軽く、「アーツ・ン・クラフツ」のように発音する。	
文化的な情報、応用表現など	絵を描くこと自体は drawing（ペン画、クレヨン画、鉛筆画）や painting（水彩画、油絵）である。	

calligraphy	2番目の i にアクセント。	書写（書道）
英語らしい音を出すコツ	ph は f の音。	
文化的な情報、応用表現など	日本、中国、韓国など、東アジアの calligraphy は、筆（brush）と墨を使う点が共通する。墨は India ink または Indian ink, または Chinese ink と呼ぶ。欧米の言語やアラビア語でもペンによる calligraphy がある。	

English	最初の E にアクセント。	英語
英語らしい音を出すコツ	l の音は上の歯の裏に舌先をしっかりと押し当てているか、確認する。	

home economics	最初の home と、まん中の no の 2 か所にアクセント。	家庭科
英語らしい音を出すコツ	「ホーム」でなく「ホウム」。Home の m と economics がつながって「ホーミカノミクス」と聞こえるときもある。真ん中の no は、「ナ」を言うときの口の形で「ノ」を発音する。eco はアクセントをおかず軽めに、「イカナーミクス」と言うぐらいのつもりで。	
文法的な注意事項	economics とは「経済」のこと。	
文化的な情報、応用表現など	英語圏では家庭科は置かない国もあり、置いても選択科目だったりする。homemaking（家庭の運営を行うこと）や family studies という言い方もすることがある。	

Japanese	後ろの -ese にアクセント。	国語
-----------------	------------------	-----------

math		算数（数学）
英語らしい音を出すコツ	math の a は、apple の a と同じで「エ」の口の形をして「ア」と言う。th は舌の先を上下の歯で挟んで発音する。	
文法的な注意事項	mathematics の略語。（強いアクセントは後の ma）	
文化的な情報、応用表現など	小学校科目の算数も、中学校高校の数学も、英語では mathematics である。Arithmetic 「計算、算術」は、加減乗除だけを指す語。図形なども含む小学校の「算数」は mathematics (math) と呼ぶのがふさわしい。	

music		音楽
英語らしい音を出すコツ	「ミュージック」ではなく「ミュージク」。	
文化的な情報、応用表現など	楽器は musical instrument。	

moral education	mo と ca の 2 か所にアクセント。	道徳
英語らしい音を出すコツ	moral の r と l の区別をする。r は舌先が歯に触れないが l は上の歯の裏について「ウ」のように聞こえる。	
文法的な注意事項	education は「教育」。	
文化的な情報、応用表現など	英語圏にこの科目はない。citizenship 「市民教育」という科目に近い。	

P. E.	P にも E にもアクセント。	体育
文法的な注意事項	Physical education という英語の頭文字を取った略称。	
文化的な情報、応用表現など	日本語の「体育」はこれを直訳したもの。	

science	最初の i にアクセント。	理科
英語らしい音を出すコツ	e にはアクセントがないので、口をあまり開けずに発音。	
文化的な情報、応用表現など	science は「科学」とも訳す。小・中・高の科目としての「理科」も science である。	

social studies	両方にアクセント。	社会
英語らしい音を出すコツ	「ソーシャル」ではなく「ソウシャル」。	
文法的な注意事項	social は形容詞。元の名詞は society。	
文化的な情報、応用表現など	小学校の教科では social studies の中に歴史や地理も含むが、それぞれ history, geography である。	